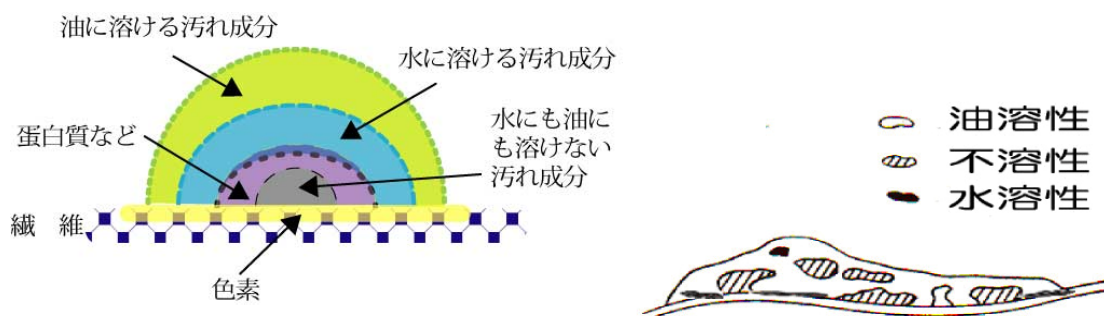


① 夏物を洗う上でのポイント

汗や飲料水などの水溶性汚れと皮脂などの脂汚れ、ホコリなどの不溶性汚れの種類に応じた洗い方でしっかりと汚れを落とす

皮脂汚れは付いて直ぐは落ち易いが時間が経つと変化して落ちにくくなる
(汗ジミが代表的なもの)

お茶(緑茶、紅茶、ウーロン茶)や果汁、赤ワイン、ぶどうジュースなどは弱アルカリ洗剤やアルカリで濃色化し落ちなくなる。



難易度判定(★が多いほど比較的に安全)

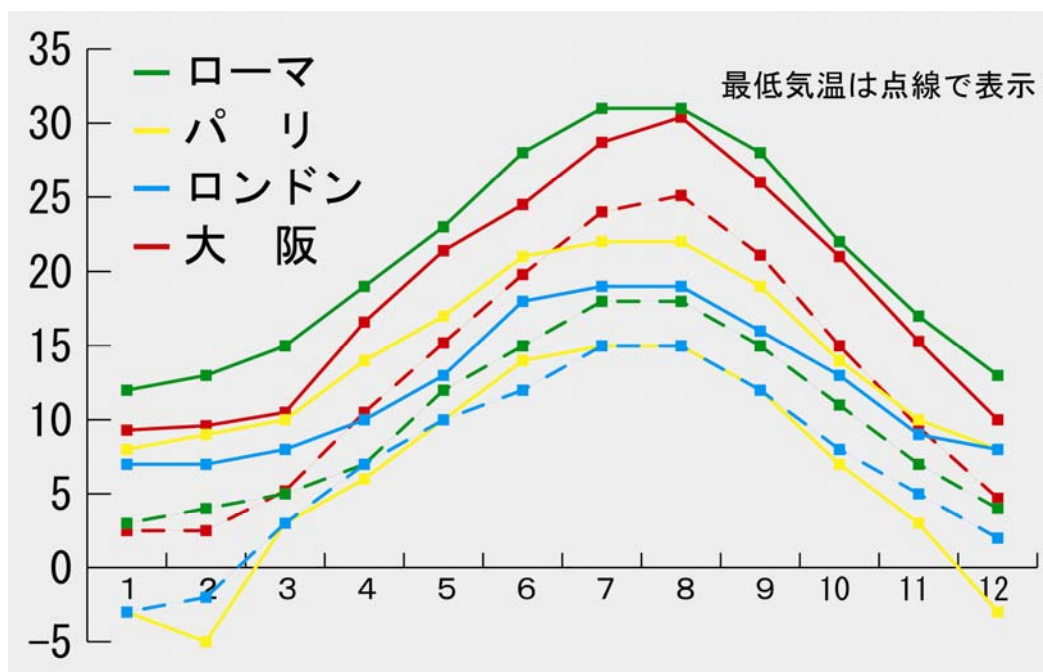
綿の白	★★★★★
綿の淡色	★★★
綿の濃色	★★
麻の白	★★★★★
麻の淡色	★★
麻の濃色	×
ウール	★
ウオッシュャブルシルクの白	★★★
ウオッシュャブルシルクの淡色	★
ウオッシュャブルシルクの濃色	×
ポリエステル	★★★★★
ポリエステルの淡色	★★★★★
ポリエステルの濃色	★★★
自分で触らない方が良いもの	
カシミアやアンゴラのような獣毛繊維	
水洗いできないシルクやウール	
レーヨンやアセテート	
テンセル	
インディゴ染めのジーンズ	
発泡プリントなどのプリント製品	
顔料使用と記載されている衣類	

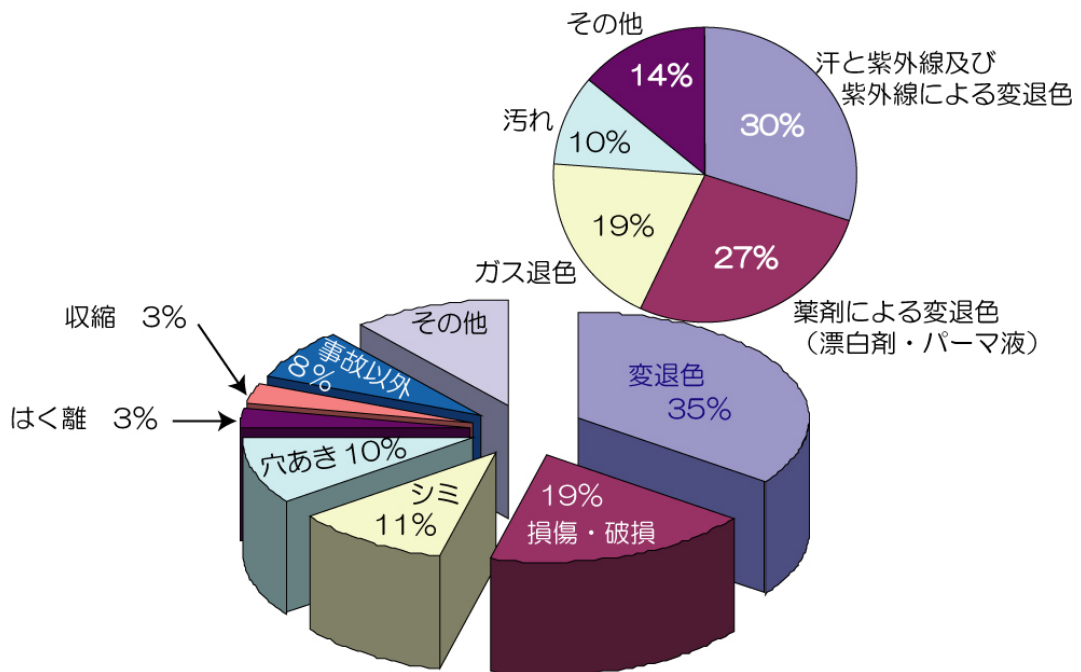
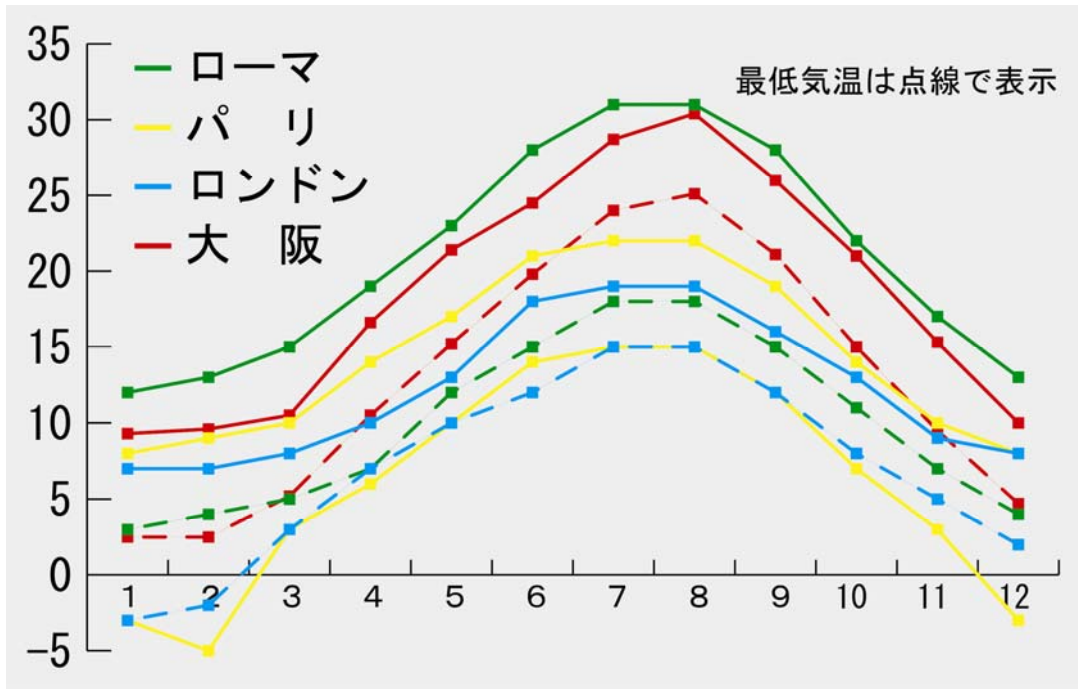
② 汗ジミの対処法

1. 油性、水溶性汚れをしっかりと落とし、色素だけが残る状態にする
2. 薄めたオキシドールもしくは酸素系漂白剤を用いて漂白する
3. 漂白効果がない場合は油性汚れの残留を疑い、脂汚れの除去をやり直した上で漂白する

③ 夏物を仕舞う前にすべきこと

1. 翌年着用できるか否かを検討しよう（脱色の程度など）
脱色は洗っても直らない
2. 汚れをしっかりと落そう
思った以上に汚れが付いている
3. 洗剤を残留させないように適正な洗剤使用量を守って洗って、しっかりとすすぐ





④ その他のしみ抜き

何をやりましょうか？

お茶、果汁のシミ、ガム、

⑤ 夏特有のものを洗う

水着でも浜辺で使用したものとプールで使用したものでは取扱いが異なります。

水着はポリウレタン糸を多く使用して伸縮性を持たせてありますが、この繊維は塩素（カルキ）によって劣化し、伸縮性が無くなり伸びたような状態になったり、切れてしまいます。これを防ぐためには塩素除去を考えた方が良いでしょう。

また、浜辺で着用した水着には細かな砂がポリウレタン糸の間に入り込み、洗っても落ちないで残ります。これは叩いて落とす方法が最適です。

⑥ 色落ちを防ぐ洗い方

1. 洗剤は汚れも洗剤も浮かすので洗剤を入れないで洗う
2. 洗剤が残留しないように適量を使用し、十分な水量ですすぐ
すすぎの際に酢酸（お酢）を入れることで洗剤の効果を失活させる
3. 脱水時に摩擦で色移りするので、単品でバスタオルで包むなどして脱水する
4. 塩水に浸ける。洗うときに塩を入れる。（ただし汚れによっては固着する）

⑦ その他

シミは余分な付着物、脱色は染料が引き算された結果

洗うことは引き算だから、（－）になったものはいくら引き算しても元に戻りません

洗って（プロに任せても）新品の状態に戻すのは無理！ 神様ホトケ様にお願いしましょう。

洗濯には時間コストも水や洗剤などのコストも掛かります。ある程度大量処理できるクリーニングを利用する方がエコかも。

きちんと洗って、きちんと仕上げておけば衣類も長持ちします。

（裏技）

洗えない（洗いたくない）高級ジーンズ、でも汗臭くなるし・・・

汗が残った綿製品は放置すると綿がボロボロになって破れてしまうことも

これを予防して、匂いも消す方法があるけど、特定の製品を使います。